

第2回敦賀市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録要旨

開催日時	令和2年8月31日 月曜日 14:00~15:30	開催 場所	敦賀市消防庁舎 3階 消防講堂
委員	【出席】16名（うちリモート出席者3名） 【欠席者】2名		
事務局	都市政策課		

1. 議題

(1) 敦賀市都市計画マスタープラン策定について

- ①現行計画の評価報告
- ②全体構想の基本的な考え方
- ③策定スケジュール

2. 会議要旨

(1) 現行計画（敦賀市都市計画マスタープラン）の評価報告に対する意見等

- (委員) 地域別説明会の表（説明資料 P7）について、東浦地区の参加人数が多い理由はあるのか。
- (事) 国道8号バイパス（防災道路）早期着手に関する説明会と思われて参加された方が多くみられた。
- (委員) 地域別説明会の参加者数が84名とあるが、年齢層や男女比はどうだったのか。
- (事) 男どの地区も50~70代の方を中心に多く参加されていた。また、男女比率は男性の方が特に多かった。
- (委員) 県道山櫛林線の高島市との接続（説明資料 P12⑨）についての意見が栗野地区で出ているが、その意見というのは交通の便を良くすることだけを行っているのか。道路を整備するとマキノ高原が近くなるので、マキノ高原と連携すれば観光にも結び付くかなという気持ちがある。
- (事) 現行計画でも放射道路として位置づけているが、敦賀市「ハーモニアスポリス構想」の中でも災害に備えた多重化を主眼に置いた整備として記載されているため、引き続き都市マスに記載するとともに、早期に接続してほしいという意見があった。

(2) 全体構想の基本的な考え方に対する意見等

(委員) 昨今はテレワークで地方に住みながら大都市での仕事をしている人も増えてきている。こういった動きが一気に加速している中で、働く場所がなくても住みたくなる都市づくりが考え方の一つに合っても良いと思う。

産業を育成するには、敦賀が『交通の要衝』という強みを発揮することが欠かせないため、敦賀－高島間の道路整備はぜひ進めてられてもいいのではないかとと思う。

(事) 敦賀市第7次総合計画の総合理念が「住みたくなるまち」の実現を掲げており、中期事業計画の原案の中でも製造業やIT関連など幅広い業種を視野に入れた企業誘致についても謳われているため、本計画においても総合計画と十分に調整しながら、企業が進出できるようなまちも視野に入れながら作業を進めていきたいと考えている。

敦賀市は、県内の都市と比べても、可住地面積が非常に狭小である一方で、郊外部へのスプロール化により農地転用が行われている。農業の担い手不足による遊休農地や空き地が増加しているため、これらを活用した方針も取り入れていきたいと考えている。

(委員長) 新しい働き方、新しい住まい方みたいところで戦略を一つ出すことと、港や道路網に囲まれた要衝の場所をいかに戦略的にやっていくかという視点もあっていいのかなと思うので、ぜひ検討していただきたい。

(委員) 2,000～3,000㎡の工業系の用地を探しているという問い合わせがあるが、土地利用調整条例によりほとんどが住居系に指定されているため、工業が進出しにくいまちになっていると思う。働く場所が多いまちを目指すなら、工業に軸足を置いてやっていくべきと思う。

(事) 土地利用調整条例は平成18年に策定されたもので、住みよいまちにしていくためのまちづくりを進めていくことを目的として策定した。条例により用途地域外の地域に用途規制をかけさせていただいているが、本計画の策定後には条例についても柔軟な運用を図っていきたいと考えている。

一方で、市内にはまとまった土地がないのも事実であり、港湾計画の改訂を進められている県からも、まとまった土地がないかの相談を受けたところであるため、愛発地区の国道8号沿道などの遊休農地・空き地を有効活用できないかと検討している。

(委員長) 敦賀港の埋め立て整備についてオブザーバーからご説明をお願いします。

(オ) 敦賀港整備に関して、今現在、鞠山南地区は1期工事の半分程度終わったおり、国の方で岸壁整備を令和3年度末の完成を目指して進めている。県では、背後地の埋め立て整備を令和4年度末を目指して進めている。県としては、岸壁を造り、背後地を広くして、コンテナやシャーシ置場を確保していきたいし、また倉庫等を建てられる所があれば建てていきたいと思う。

長期構想計画の策定と港湾計画の改定を今年度、来年度で進めている中で、色々な関係者のアンケートやヒアリングをしたところ、倉庫用地やトラック置場

が足りないといった話をよくお聞きする。

(委員) 埋立地の拡大が計画されているところも含め、臨港地区の工業系用途地域に誘致するのは、運送業や倉庫業がメインか。

(オ) 基本的には県有地としてコンテナを置く場所であるため、現時点では民間企業に売るとは今のところあまり考えていない。

(委員) 敦賀市へ来たいという製造業が結構あるため、もう少し提供場所があるべきと思う。

(事) 現工業系用途地域内に住宅と混在しているところもあるため、そういう場所はこの先工業系の場所として強く図っていきたい。

(委員) 敦賀市は農業振興地域がとても狭いので、今の工業団地も農地が全部つぶれて工業団地化された。

また、敦賀市の場合、後継者がいないため、遊休農地が増加しているが、後継者不足の解消には農地確保が第一だと思う。農地保全にも力を注いでほしい。

(委員) 計画を作る上で、市の将来人口をしっかりと押さえておくべき。敦賀市の場合、20年後の人口は今より1万人少なくなる中でどういう生活ができるのかということ想像して書かなければならない。人口減少が進むことをイメージした計画になることを期待したい。

その意味で、市役所のところはある程度施設はあるが「発展軸」(説明資料P28図)といえるほどの発展をしていないという感じがするため、人口減少が進む中で、発展軸の位置づけについては検討課題だと思う。

立地適正化計画を勘案すると発展軸は多少後退させてもいいのではないかなと思うので、次回ご検討いただきたい。

(事) 現行計画にある発展軸は、立地適正化計画の誘導区域などを考慮しながら、位置づけを検討していきたい。

(委員長) 立地適正化計画の誘導区域などに重ね合わせるのは中々やりにくいことだが、それを見越した計画になっていくべきだと思う。

(委員) 居住誘導区域に誘導を図るために、土地を手放す際の支援・補助があると空き地・空き家を有効に活用できることについてどう思うか。

(事) 市街から出られた方に対する支援について、関係部局に意見を伝え、空き家等の対策を進めていきたい。

(副委員長) 現行計画の「市街地整備基本方針」が「市街地の整備方針」としているのは再整備という意味合いが込められていると感じた。

ハーモニアスポリス構想のエネルギー政策は低炭素社会への転換でもあると思われるが、低炭素社会において都市をどのように再構成していくのか、敦賀の特徴の一つ見出してほしく、新たな計画の中で明示的に示されたいと思う。

自動運転化が進む中でトラックが大型化しているが、交通の要衝と立地特性を活かし、インター付近などに物流センターを建設できる場所が必要になると思うため、今後研究が必要だと思う。

交通体系の方針（説明資料 P33）の中で、歩行者や自動車だけでなく、自転車もぜひ入れておいてほしい。最近、国ではウォークブル推進都市という歩いて暮らせるまちということが言われている中で、敦賀も国の補助などをうまく取り込みながら中心部の環境改善につなげていけるといいと感じた。

公園緑地の方針（説明資料 P34）に記載する公園はどれぐらいの規模を指しているのかイメージしにくい。緑のネットワークは公園緑地や道路をつなげていることを含んでいるのか。公園施設は他の市町に比べて結構立派に造られているため、そういうものとネットワークをつなげると敦賀は資産を結構持っているかなと思う。

（事） 新たな計画では「方針」として統一していきたいと考えている。

交通体系については、自転車も反映していきたい。

公園緑地の方針にある緑のネットワークについては、川辺や都市公園を道路の緑化などでつなげるイメージで、視覚的にイメージしやすいような図も載せたい。

以上で策定委員会を終了。

3 閉会

- ※ （委員長） = 策定委員会委員長
- （副委員長） = 策定委員会副委員長
- （委員） = 策定委員会の委員
- （事） = 事務局（都市政策課）
- （オ） = オブザーバー